

年 組 番 氏名

アリという生きものからイメージするのは、①律義（りちぎ）な働き者である。②キンベン（勤勉）の代名詞といつていい。昭和の大家だつた俳人加藤楸邨は「日本にこの生まじめな蟻の顔」と詠んだ。作者の日本人観であり、ユーモラスな自画像でもあろう▼×Xところで、アリの大敵に（1）アリジゴクがいる。砂地などにすり鉢状の巣を③ホ（掘）つて④潜（ひそ）み、落ちてくるのを⑤ホショク（捕食）する。巣は砂が崩れないぎりぎりの角度に作られていて、アリが脚を踏み入れると崩れるそうだ▼小さな働き者がころがり落ちる図は哀れだが、（2）それが虫の話だとも思えなくなってきた。この国の借金は一千兆円を超えていた。それに加えて、各省庁の来年度予算の⑥ガイサン（概算）要求は102兆円台で、過去最大になるという。「ぎりぎりの角度」に近づいてはいなか▼先進国中最悪の水準といわれ、国民1人がすでに約830万円もの⑦シャクザイ（借財）を背負っている計算になる。今日をしのぐ借金を子や孫の世代の暮らしを⑧質草（しちぐさ）にして重ねている格好だが、このままではいずれ限界はやつてこよう▼国債の暴落や超インフレを⑨ケネン（懸念）する声は常にあって、そうなれば国民生活は⑩破綻（はたん）しかねない。「生まじめな蟻」と思っていた自画像は崩れて、砂の穴底へころがり落ちることになる▼「それ世の中に借銀の利息ほどおそろしき物はなし」と井原西鶴は（3）「日本永代蔵」で言う。このリアリストなら、何とかなるだろうという根拠がない樂觀をきつく叱るに違いない。様々な痛み分けを、もう先送りにはできぬはずと。

〔2015年9月1日「天声人語〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを答えなさい。

問二 次の俳句の作者を語群から選び、（　　）に記号を書き入れよう。

- ア 水枕ガバリと寒い海がある（C）  
 イ 外にも出よ触るばかりに春の月（A）  
 ウ 鮫鱗の骨まで凍ててぶちきらる（D）  
 エ 足袋つぐやノラともならず教師妻（B）

〔語群〕 A 中村汀女 B 杉田久女 C 西東三鬼 D 加藤楸邨

問三 ▲X▼に適する語を次から選び、書き入れよう。

・だからこそ ・さらにまた ・ところで ・けれども

問四 「アリ」が、働き者の日本国民にたとえられるなら、傍線部（1）「アリジゴ

ク」は何にたとえられるか、文中から二字の熟語で答えよう→（借金）

問五 傍線部（2）「それ」の指示内容を考えよう。（解答には「アリ」「アリジゴク」の語を必ず用いること）

〔答例〕（アリがアリジゴクの巣に捕まつて、食べられてしまうこと。）

問六 傍線部（3）「日本永代蔵」にあてはまる選択肢の記号を○で囲もう。

- ア 男女の恋や好色生活を描いたもの。 イ 武士道を主題としたもの。  
 ウ 町人生活を主題としたもの。 エ 諸国の珍聞奇談。